

香川大学教育学部附属坂出中学校で

支援活動① を実施しました

6月23日、教育創造コースの2年生が香川大学教育学部附属坂出中学校の総合学習「CAN」の活動に参加しました。附属坂出中学校では、学年の枠を超えたチームを作り、探究テーマを決めて「CAN」に取り組んでいます。

【オリエンテーション】

- 坂出附属中学校では総合的な学習の時間を全ての学びの基軸になる存在として位置づけて運用している。
- 子どもが自ら学ぶにはどうすればよいか。生涯に亘って学び続けるにはどうすればよいか。
- 自由とは「何もしないこと」ではない。
- 教師は何をしたらよいか。今日は、教師の視点を持って、生徒の支援をして欲しい。

吉田教頭先生のご講話より

- CANとは、Cluster（異学年合同の小集団） Action Learning（お互いに質問） Narrative Approach（語る・振り返る）の活動のこと。
- 本日は Action Learning の質問会議→「問う関わり」を通して、問題の根源が明らかになる。追究したいことが明確になる。
- 中学生が最後にまとめる CANLOG に、今日の坂高生との出会いが記録されることを願っています。

島根先生のご講話より



支援活動の様子



【坂高生の感想や反省】

- 中学生の発想が凄く面白くて、ついていくのに必死でした。
- 言葉がうまくまとまらず、質問をすることが難しかった。
- 自分の考えを短時間でまとめる力が必要だと思った。
- 良いところを褒めつつ、アドバイスもできるように心がけた。
- 内容に関する質問をあまりできず、表現に関するアドバイスが多くなった。

相手のためになる質問をすることがとても難しかったようです。次回の支援活動では、今回できなかったことができるように努め、目標を明確にして取り組みたいと思います。